

音楽サークルドラむす

みんなで音楽たのしもう!

障がいのある人もない人も誰もが参加できる音楽サークル。ギター、ピアノの演奏をベースに容易に演奏できる楽器を使い、懐かしい歌、楽しい歌をみんなで歌う。全体練習を毎月1回第4日曜日に行い、発表の場として地域のお祭りなどに定期的に参加している。また独自企画のコンサートを開催することもある。メンバーは小学生から成人の男女約20人、そのうち半分は何らかの障がいを抱えているが、そのすばらしい演奏が聞いている人の心を温かくし、感動と元気を与えている。

受賞コメント

この度は、このような賞をいただき、ありがとうございます。ドラむすで活動する障がいのあるメンバーが賞状をとてうれしそうに受け取っていました。今後もドラむすらしい演奏を、さまざまな方に聴いていただけるよう、活動していきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひ致します。

DATA 設立: 2004年 活動人数: 21名 HP: <http://www.doramusu.net/>



ポラみみからエールを込めて。

昨年からはまった「ポラみみアワード」。第1回目は、編集チームのスタッフが推薦する団体の中からアワードを選考しました。第2回目となる今回は、編集チーム以外のボランティアスタッフからも広く推薦団体を募集しました。ポラみみ以外の団体・施設でも活動しているスタッフが多いため、さまざまな分野の十数団体が候補として挙がりました。どの団体の活動も素晴らしく、それぞれの良さがあり、今回も悩みながらの投票だったと思います。当初5団体の予定でしたが、同じ得票数の団体が複数あり、6団体となりました。

そして今回は、2015年11月29日(日)、ポラみみより情報局の総会の開催日に「表彰式」を行いました。地域社会のために、これからも一緒にがんばりましょう!という気持ちを込めて、賞状と副賞をお渡しすることができました。普段は電話やメールでのやり取りが多く、直接お会いする機会が少ない団体の皆さんとお話するとても貴重な時間となりました。皆さまからいただいた「『ポラみみ』を見た方が活動に参加してくれています」という言葉は、私たちにとって何よりの励みです。今回の「ポラみみアワード」が、団体・施設の皆さまの励みとなれば、うれしいです。

また、今年は名古屋グランパスエイトさんより副賞としてノベルティグッズをご提供いただきました。アワードにご協力いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。



選考会の様子



ドラむすさん、賞状と副賞を手にピース!



表彰式にて:
ささしまサポートセンター理事長・森 亮太さん



名古屋グランパスエイトさん、ありがとうございました!

NPOとはたらく!

NPOの仕事って? NPOで働くって? NPO職員のナマの声を紹介します。



松浦 史典さん

所属団体
認定NPO法人
ホープ・インターナショナル開発機構
所属年数
・職員: 3年6ヶ月
・活動年数: 4年6ヶ月

今の仕事に興味を持ったきっかけを教えてください。

子どもの頃、テレビで外国の飢餓の状況を見たのがきっかけで、それ以来「日本では不自由なく過ごしているけど、一方で世界には苦しんでいる子どもたちがいる。この状況は、どうなんだろう」という気持ちがありましたね。そういう漠然とした興味はありましたが、何から始めればいいのかわかりませんでした。その時に見つけたのが、名古屋NGOセンター主催の「NGOスタッフになりたい人のための研修」(通称「Nたま」)でした。Nたま時代に、ホープ・インターナショナル開発機構(以下「ホープ」)にインターンとして関わり始め、その後もボランティアとして活動を続けました。そして、エチオピアの駐在員として働かないかという話をいただいたことがきっかけで、職員になりました。

今はどんな仕事をしていますか?

エチオピアには水供給事業のため10ヶ月ほど滞在し、現地スタッフと共に簡易水道を作り、住民に管理方法や衛生教育などの指導を行いました。

帰国後は「ファンドレイザー」として働いています。支援者を増やし、活動に必要な資金(寄付や会費)を集める仕事ですが、日本では業務の1つとして行っていることが多く、専任のファンドレイザーは少ないかもしれません。

ホープは約30の発展途上国で、貧困地域に住む人に衛生的な水を供給する活動をはじめ、貧しい人々の生活改善プロジェクト等を行っています。その活動費の47%(平成25年度)が支援者からの寄付です。日本でも、名古屋・東京・関西で開かれる「ホープ・チャリティーディナー」を中心に、チャリティーイベントを実施しています。日本事務所がある名古屋では、月に1回の「ホープ・ナイト」など、活動をより深く知ってもらえるようなイベントも企画・運営しています。

ボランティアと職員という立場の違いは感じますか?

インターンやボランティアで関わっている時は、翻訳などの事務作業がほとんどでした。インターンだと活動する日数や頻度などの関係もあり、できることに限りがあったと思います。今は事業の全体像がよくわかります。また、自分がエチオピアの事業に関わったことで、ホープの活動の大切さを実感しました。だからこそ、そのための活動資金を少しでも多く集めたいと思っています。寄付が多ければ多いほど、ホープが解決したい問題に興味をもってくださり、自分たちの活動を応援してくれる人が多いということですから。

